**ｘのの内容に合うものに〇、そうでないものに×をつけてください。**

．では、日本語にはがあるとえられる。

２．に女ことばを使っている人はくいない**。**ｘ

３．女ことばは、東京でよく話されている。ｘ

４．のはにできた。ｘ

．男女を区別する考え方はのを受けて出てきたものである。

**「ことばとジェンダー」**

さん（）

【この人に聞く！】2017年12月07日

では「日本語にはがあります」とされていますが、「女ことば」をに使っている人は思っているほどいるわけではなく、にやテレビドラマなどのフィクションのや、ののをたせた、いわゆる“おねえ”の人などが使っているものがなのではないかとっています。

私はでの中でち、まわりにはも「女ことば」を使っている人はいませんでした。では、「おれ」や「おら」などは男も女も使いますし、にも日本のにはあまりがありません。そのため、小さいころ、やテレビドラマなどに使われている「女ことば」を読んだり聞いたりすると、それらは東京の人たちの話すではないかと思っていました。そのうち、東京に足をのばしてみても、「…だわ」や「…かしら」などのいわゆる「女ことば」をに使う人はそれほどいないということに気づくようになりました。そうなると、でいうところのいのというものは、のがしているいではないとするようになり、にをもつようになりました。

にみると、少なくとも小説などでは、までは、に「…だぜ」とか「…かしら」などのいをしていて、男女のはなかったと言われています。それが、のによって、が作られた後、西洋のであるといったなも取り入れられ、女は女らしく、男は男らしくというのもとに、「女ことば・男ことば」というものも形成されていったのです。もともと日本では古くから、男女をしたのをつくってきたわけではありません。例えば“”などの文化も当たり前にありました（今でもによってはあります）。のにより“”は“”なものだと考えられるようになったにすぎません。つまりをに感じるようさせられるようになったのです。

（ア）なぜ、それほどにではあまり使われていない「女ことば・男ことば」が、でもなものとして、あるいはをもたず、受け入れられているのでしょうか。そののつとしてすぐにいかぶのは、①

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ではないかということです。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　と思います。

<https://www.azarea-navi.jp/cyottoe/gender/（2020年7月31日閲覧）>